

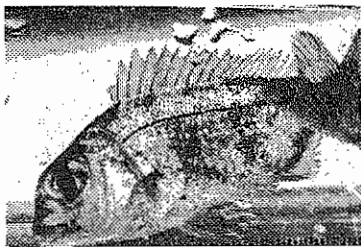
滑り台に乗って次々と小網代湾へ

5小学校から160人

栽培協・今井さんミニ講話

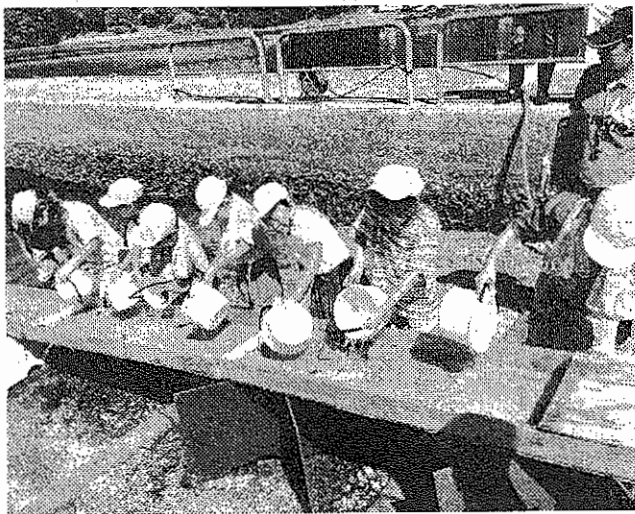
マダイ稚魚放流

海洋教育の一環に8日、小網代湾でマダイの稚魚放流が行われた。毎年、NPO法人小網代パール海育隊（略称・小パール隊）とみう



ら学海洋教育研究所がタイアップしている。引率の先生を含め約160人の児童が滑り台のような『ウォータースライダー』を使い放流した。

放流された稚魚は体長7センチ前後で、神奈川県栽培漁業協会が約1年かけて育てたという。小さなバケツに数匹ずつ分けられた後、湾内に放流された。ウォータースライダーの上には常に海水が流され、魚が傷つかないよう工夫されている。



関係者によると、標識をつけたマダイが20年後に大磯で捕獲された例があり、養殖されたマダイが最低でも20歳に達していたことがわかったという。小網代の森と小網代湾が密接に繋がっているとし、小魚の稚魚はアマモやカジメをゆりかごに成長する。海水温が上昇し、アマモやカジメが枯れてしまい、海底が砂漠化している。海藻の中には花が咲き、実をつけて増える種類もある。回復させるには時間がかかるが、再生は絶対必要などとおびかけた。

参加した児童は三崎三年生、名向三年生、上宮田一、四年生、南下浦一、四年生、旭二年生。放流に先立ち、栽培漁業協会の今井さんが稚魚放流の必要性などについてミニ講話を行った。

【写真】放流されたマダイの稚魚①滑り台に稚魚を放つ児童たち（小パール隊提供）。